

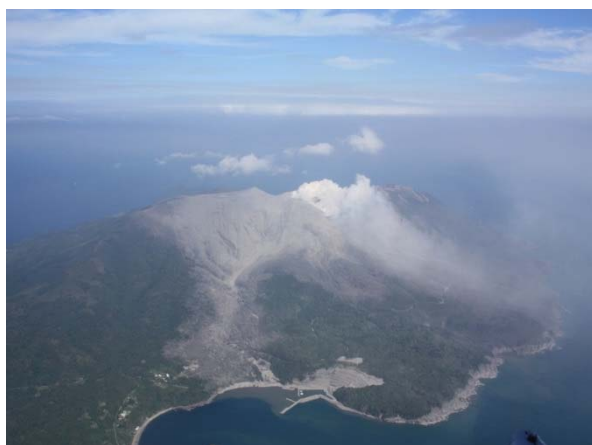
口永良部島の噴火に伴う土木研究所の技術支援



- 平成27年5月29日9時59分に口永良部島新岳において爆発的噴火が発生した。噴煙は9000m以上に上り、爆発に伴い発生した火砕流が新岳から流下し海岸まで達した。この噴火に伴い、口永良部島の島民が屋久島に避難を余儀なくされた。
- 火山活動は依然高まった状態が継続しており、かつ、新岳の斜面には火山灰が広範囲に降り積もっていることから、降雨時には土砂災害の危険性が懸念された。
- 九州地方整備局の要請により、土木研究所では6月4日に土砂災害の専門家を派遣した。同時期に派遣された国土技術政策総合研究所の専門家と協力して、新岳周辺の降灰・土石流の発生状況についてヘリによる調査を行った。
- 調査で観察すべき事項や土石流の発生状況について説明するとともに、土砂災害への警戒における留意点等について助言した。



九州地方整備局長にヘリ調査内容を説明する土木研究所職員(写真右)



5/29噴火直後の口永良部島
(九州地方整備局撮影)



6/4口永良部島で発生した土石流
(九州地方整備局撮影)



masukomiの取材対応を受ける土木研究所職員